

2. 事業の概要と成果																	
(1) プロジェクト目標の達成度	バゴ-木工技術センターの改修と同センター運営委員会の発足が完了し、地域の木工生産者向けに継続的な研修・講習が行える環境が整備された。研修・講習に参加した生産者は品質や生産性向上に係る技術を習得し、海外向け製品を生産できる工房が増加した。																
(2) 事業内容	<p><u>アウトプット1：技術センター運営委員会による研修実施体制を整備する</u></p> <ul style="list-style-type: none"> バゴ-木工技術センター（以下、技術センター）の運営委員会（以下、委員会）の発足に必要な合意および契約が完了し、地域住民による活動が開始した。 委員会メンバーは、2019年4月30日の第1回会合以降、事業期間内に計6回の会合を開催し、技術センターの内装工事、機材調達、研修テーマなどについて主体的に協議を行った。【別添2：活動実績表】 <p><u>アウトプット2：技術センターを現地に即した設備・研修環境が整った施設へ改修する</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 2019年4月、技術センターの改修を開始し、委員会事務所およびレーザー室の整備が計画通りに完了した。同事務所は、上述の委員会会合等による利用が開始した。 同5月、技術センターにおいて、バンドソー、バンドソー鋸刃溶接機、排気ろ過装置、ろくろ、小型研磨機など機械設備および、作業台や整理棚など什器について、調達・設置を開始し、計画通りに完了した。一部機械設備・什器の種類、数量について、事業変更報告により変更した。【別添3：センター設備リスト】 <p><u>アウトプット3：工房主向けスキルアップ研修を実施する</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 2019年3月、バゴ-市内の木工品生産地区の木工工房を対象に、工房の規模、生產品目、使用設備などを調査し、86工房のマッピングが完了した。 改修および設備拡充が完了した技術センターを会場に、ミャンマー人の熟練生産者を講師として、地域の木工品生産者向けスキルアップ研修を3回実施した。日程、テーマ、参加者数は下表の通り。 各回の研修でテキストを制作し、製本した。研修の様子は、当会スタッフにより動画撮影し、将来的に活用できるよう記録を残した。 <p style="text-align: center;">表1 スキルアップ研修実施記録</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日程*1</th> <th>テーマ</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td>7月21日～ 8月2日</td> <td>サンディング基礎（課題：箸置き）</td> <td style="text-align: center;">3</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>8月26日～ 9月6日</td> <td>連続した曲線の加工：カットティング、サンディング（課題：スプーン）、生産性</td> <td style="text-align: center;">8</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>9月30日～ 10月11日</td> <td>直線を意識した加工：カットティング、サンディング（課題：箸）、生産性</td> <td style="text-align: center;">4</td> </tr> </tbody> </table> <p>(*1) 事業申請時には、5日間×1週を想定していたが、工房調査および委員会会合を経て、2週、10日間の研修とした。</p> <p><u>アウトプット4：現地で利用可能な木材乾燥機を開発し、工房主向けに普及モデルを提示する</u>／<u>アウトプット5：防塵対策研修を実施する</u></p>	回	日程*1	テーマ	参加者数	1	7月21日～ 8月2日	サンディング基礎（課題：箸置き）	3	2	8月26日～ 9月6日	連続した曲線の加工：カットティング、サンディング（課題：スプーン）、生産性	8	3	9月30日～ 10月11日	直線を意識した加工：カットティング、サンディング（課題：箸）、生産性	4
回	日程*1	テーマ	参加者数														
1	7月21日～ 8月2日	サンディング基礎（課題：箸置き）	3														
2	8月26日～ 9月6日	連続した曲線の加工：カットティング、サンディング（課題：スプーン）、生産性	8														
3	9月30日～ 10月11日	直線を意識した加工：カットティング、サンディング（課題：箸）、生産性	4														

- 日本人専門家を2019年3月14日～22日、11月5日～22日の2度、現地派遣した。
- 3月、日本人専門家の指導により、電力式の木材乾燥機の試験機を製作した。製作にあたり同専門家は、事業地の自然環境や社会環境について情報収集したほか、事業地で入手できる資材の調査も行ったうえで、仕様を確定させた。完成した試作機を用いて、事業期間において3週間×5回の木材乾燥試験を実施した。試験方法は、同専門家の監修の下で定められ、現地派遣期間において当会スタッフ向けに試験実施に向けた指導を行った。
- 3月～11月において、日本人専門家は木材乾燥試験の結果分析や講習準備のため、日本で業務協力を行った。
- 11月、日本人専門家の指導により、木材乾燥試験の結果を踏まえて、電力式および火力式の木材乾燥機の普及型モデル機を製作し、技術センターに設置した。本事業期間中において、ミャンマー全国で電気料金が改定、大幅に値上がりし、電気代が生産者にとって乾燥機導入の阻害要因となる可能性が高まったため、火力式の普及モデルも開発した。
- 11月、日本人専門家を講師として、木材乾燥、防塵対策をテーマにした講習を1日間実施した。木材乾燥および防塵対策について、必要性から具体的な方策まで紹介し、普及促進を行った。
- 11月、上述の講習に参加した当会ミャンマー人スタッフを講師として、木材乾燥、防塵対策をテーマにした講習を1日間実施した。日本人専門家は、講習の前後において、講習実施方法について指導と助言を行った。
- 木材乾燥講習、防塵対策講習それぞれについて、テキストを制作し、印刷した。

表2 技術講習実施記録

回	日程	講師	テーマ	参加者数
1	11月14日	日本人専門家	木材乾燥・防塵対策	13
2	11月20日	当会ミャンマー人スタッフ	木材乾燥・防塵対策	7

アウトプット6：事業実施の中間成果物を取り纏める

- 3回のスキルアップ研修、木材乾燥講習、防塵対策講習について運営マニュアルを制作した。各研修・講習の運営の要点は共通しているため、汎用的に使用できるものを作成した。

アウトプット7：技術センターの次年度実施計画を策定する

- 2019年12月12日に開催した第6回委員会会合において、技術センターによる2020年の活動計画を立てた。

アウトプット8：Asia Modern Crafts社より取引情報の提供を受け効果測定を行う

- 事業終了後、Asia Modern Crafts社より提供の取引情報を確認し、新規に海外向け製品が生産できるようになった工房を確認した。結果は後述の成果の項を参照されたい。

(3) 達成された成果

成果1：バゴー木工技術センターで工房向けの技術講習が継続的に実施される体制が整う。

指標：

1. バゴー木工技術センターの改修が完了し、現地の木工品生産者が参加するスキルアップ研修に使用できる機械設備が導入された。

	<p>2. 3回のスキルアップ研修および2回の防塵対策研修に、のべ35名が参加した（目標50名、指標達成度：70%）。参加者アンケート結果よりスキルアップ研修の理解度は93%、防塵対策研修の理解度は92%であった（どちらも、目標80%、指標達成度：100%）。【別添4：理解度集計表】</p> <p>3. 3回のスキルアップ研修、木材乾燥講習、防塵対策講習について、運営マニュアル、講習テキストが制作された。</p> <p>4. 2019年度の運営委員会の事業計画が立案された。</p> <p><u>成果2：木工工場の生産性が向上し、海外向けの高品質な製品を生産できる工房が増える。</u></p> <p>1. 木材乾燥設備の普及モデルが完成した。</p> <p>2. 乾燥技術講習に20名が参加した（目標20名、指標達成度：100%）。参加者アンケート結果より理解度は76%であった（目標80%、指標達成度：95%）。【別添4：理解度集計表】</p> <p>3. 木材乾燥設備の普及モデルが、1件の工房で導入された。</p> <p>4. Asia Modern Crafts社の発注工房数が9件から10件となり、11%増加した。（目標10%、指標達成度：100%）</p> <p>SDGs目標：本事業は、バゴー郡区の木工品生産者に対して、生産技術の向上、防塵対策による労働衛生環境の改善などの成果を収めた。よって、SDGs目標4のターゲット4.4「2030年までに、技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる」への寄与したと考える。さらに、目標8のターゲット8.2「経済生産性の向上」、目標9のターゲット9.2「産業セクターの比率増進」にも小規模ではあるが、寄与したと言える。加えて、本事業の波及効果として、貧困削減、良質な教育機会の獲得、経済成長と労働機会の創出、産業育成と技術革新なども期待できる。</p>
<p>(4) 持続発展性</p>	<p>本事業で改修、整備した技術センターについては、本事業により発足した運営委員会が中心となって、維持・管理を行う。また、スキルアップ研修、木材乾燥講習、防塵講習については、本事業により将来にわたって活用できる教材開発を行ったほか、研修の運営マニュアルの整備も行い、将来的な開催の手引きとして活用が見込まれている。</p> <p>さらに当会では、令和元年度N連事業によって、当該コミュニティにおいて1年間の後継事業を実施することが確定しており、同事業によって、生産者人口の維持・拡大に向けた新たな課題に取り組み、木工品産業が地域の特色ある産業としてより持続的に発展できることを目指している。</p>